

東京のまちづくり

特集1 東京の無電柱化

特集2 秋の小石川後樂園 深山紅葉を楽しむ
冬も楽しい熱帯植物館 「熱帯のクリスマス展」[干支の植物展]

特別特集 橋の架け替えのお話し 関戸橋編



無電柱化前



無電柱化後

環状七号線(足立区加平)



秋の小石川後樂園

東京の無電柱化

現状と課題

どうして無電柱化が必要なの?

東京では、戦後、都市の発展に伴い、多くの電柱が建てられました。その結果、電線が張り巡らされ、電柱が立ち並び、都市景観を損ねるだけでなく、歩行者や車いすの通行の妨げになっています。また、災害時に電柱が倒れ、道路が塞がってしまう恐れがあります。さらに、首都直下地震が発生した場合にも甚大な被害が想定されることから、無電柱化の重要性が一層高まっています。



令和元年台風15号の影響による電柱倒壊(新島村 若郷地区)



市内の電柱の本数
(令和3年度末現在)

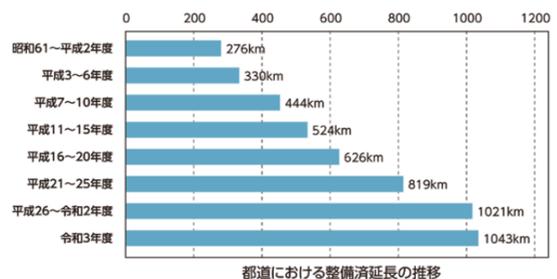
道路種別	数量(本)
都道	約 53,600
区市町村道	約 633,800
合計	約 687,400

これまでの整備実績

都道の無電柱化はどこまで進んでいるの?

東京都では昭和61年度から計画的に無電柱化を進めています。計画幅員で完成した都道における地中化率は、令和3年度末現在で区部は64%、多摩地域は22%、都道全体では45%となり、整備累計延長は1043kmとなっています。

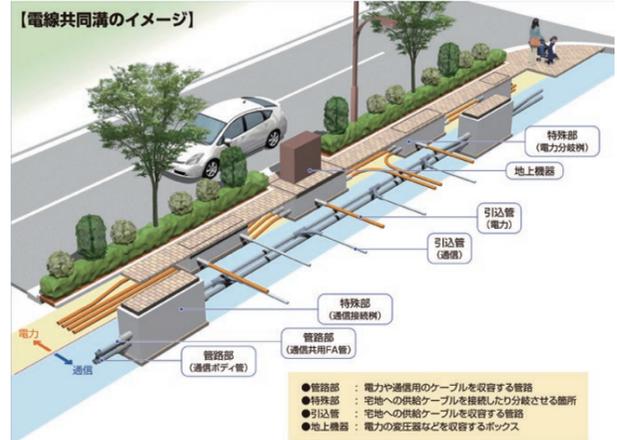
※地中化率：整備対象延長に対する、電線共同溝本体が整備された延長の比率をいう。



無電柱化のしくみ

無電柱化はどのようなしくみなの?

東京都では、電線共同溝による無電柱化を行なっています。電線共同溝とは、電線を地下の空間に収容するための施設で、「電線共同溝の整備等に関する特別措置法」に基づき整備を行います。この法律によって、電線共同溝の整備に指定した道路では、新たな電柱および電線の占用を制限することが可能になります。電線共同溝は、主に管路部、特殊部、引込管などで成り立っています。



整備の方針

無電柱化はどのような道路が対象なの?

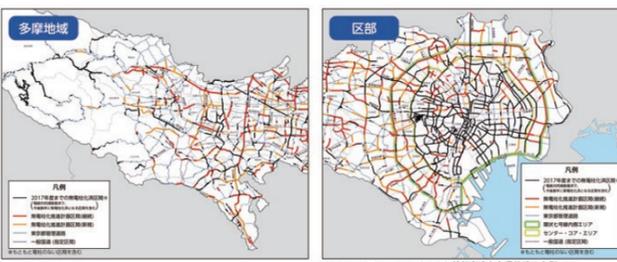
歩道幅員2.5m以上かつ計画幅員で完成している都道環状七号線の内側、第一次緊急輸送道路、利用人員が多い主要駅80駅周辺等

新設・拡幅整備を行う都道

道路の新設や拡幅を行う際に同時に無電柱化

区市町村道の促進

センター・コア・エリア内、主要駅周辺、主要観光地周辺及び防災に寄与する路線



第3回「無電柱化の日」フォトコンテスト入賞作品発表

令和5年11月10日(金)午後東京都庁にて、入賞者の表彰を行う予定です。なお、本イベントの様子は東京都公式動画チャンネル「東京動画」でライブ配信する予定です。ぜひご覧ください!

問い合わせ先 道路管理部安全施設課無電柱化推進担当 TEL: 03-5320-5305
HP: <https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/road/kanri/gaiyo/chichuka/mudentyuuka-top.html> [HP]



島しょ地域における無電柱化

防災性向上を早期に実現する観点から下記の区分に分類し、計画的に整備を進めていきます。

区分	整備区画と目標
緊急整備区画	被災リスクを大幅に低減させる上で効果が大きい区画 2025(令和7)年度までに完了
優先整備区画	島内において広範囲の停電・通信障害を防ぐ上で効果が大きい区画 2030(令和12)年度までに完了
一般整備区画	上記2つ以外の区画 2030年代の完了を目指す
拡幅整備等の実施(予定)区画	拡幅整備等に併せて順次無電柱化を行い、2030年代までの完了を目指す



「電柱のない島」の実現に向けた取組

「電柱のない島」の実現に向け、先行整備する島として利島及び御蔵島を対象とした「利島・御蔵島無電柱化整備計画～電柱のない島に向けて～」を策定しました。

都道や港のみならず村道等(民有地なども含む。)についても無電柱化を実施することで、無電柱化の効果を更に高め、防災性の向上を図るとともに良好な景観を創出します。

【整備対象】利島・御蔵島の都道や港及び村道(全ての電柱を対象)

【整備目標】2030(令和12)年度までにおおむね完了

建設局クイズ 無電柱化の日はいつ?

問題

「無電柱化の推進に関する法律」では、国民の皆さまに広く無電柱化の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、「無電柱化の日」が定められています。さて、「無電柱化の日」は次のうちどれでしょうか?

- ① 11月1日
- ② 11月10日
- ③ 11月11日

正解

② 11月10日
「1」を並び電柱に見立て、それを「0」にするという意味で11月10日としています。国及び地方公共団体は、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めることとされています。



ミーアキャットの暮らし

井の頭自然文化園 飼育展示係 松井由希子

ミーアキャットはアフリカ南部の乾燥した平原に生息する動物で、1組のペアとその子どもたちからなる家族で群れを作り、地面にトンネル状の巣穴を掘って生活しています。社会性がとても豊かで、時に複数の家族が共同で暮らす大きなコロニーになることもあるようです。名前の「キャット」から英語の「cat」を連想しネコの仲間と間違われる事がありますが、実際はマングースの仲間です。

当園では1組のペアとその2頭の子供、合わせて4頭のミーアキャットを飼育しています。天気の良い朝には、真っ先に太陽にお腹を向けて起立しています。これは日光を浴びて夜間に下がった体温を上げたり、必要なビタミンの生成に役立てたりしていると言われています。その後、砂場では旺盛に穴を掘り、毎日せっせと巣穴を作っています。一方、見晴らしの利く高い所に直立し、群れに危険がないよう見張りをする個体もいます。当園では、上空にヘリコプターや飛行機の飛行音が響いたり、カラスなどが飛び回る姿がよぎったりすると、「キッキキ」という警告の鳴き声を発し、群れに危険を知らせます。すると、皆一斉に身を隠せる避難場所に逃げ込み、身を守る行動をとります。見張りや日光浴など、時にユーモラスにも見える行動の数々ですが、そこには必ず何か意味があるのです。

動物園では危険がないように人間が注意を払い、餌も不自由なく与えて飼育していますが、そのような飼育環境にあっても、動物が本来持つ習性から見せる行動は、生息地での生活を垣間見させてくれます。

皆さん、そんなミーアキャットの生態を、じっくり観察してみてくださいか?

水族園の“かお” 葛西臨海水族園 トビハゼ

魚ですが、泥の上で暮らすトビハゼ。東京湾にも生息しています。

泥の上をどのように移動したり、ジャンプしたり、ユニークな行動をぜひ見に来てください!

